

328) 涙雨 99. 12. 19.

今日もまた雨の^{しずく}雫が 音もなく降り注ぐ
喜びは大地に沈んで 哀しみは地を覆う
気紛れな空があるから 束の間の雨が降り
傘のなか愛を感じた あの人はもういない

大いなる心を捨てて 閉ざすよに雨が降る
この雨は天国にいる あの女^{ひと}の涙雨
泣かないで僕が愛した 泣かないであの瞳
夏の日^に輝いていた 面影が目に浮かぶ

思い出を置き去りにして 君一人旅立った
この大地 君のすべては もとのまま残ってる
どうしても君に逢いたい ^{いと}愛しさを塗り替えて
この大地で君に逢いたい あの時の君のまま

もう一度やり直せたら 心から愛し合い
いつまでも一緒にいたい 君のこと離さない
もとどおり心の^{かじ}舵を いっぱいに戻しても
人生は先の見えない 航海に似ている

